

震災避難所における巡回健康チェックに関する一考察

○ 渡辺 伸 中島久和 櫻井孝博 佐藤秀寿
本田 修 星 健也 鈴木 仁

公益財団法人福島県保健衛生協会

【はじめに】 3・11東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の放射性物質汚染により、1か月以上の避難を余儀なくされ、身体的、精神的に極度の疲労状態にあった被災者への支援と不安軽減を目的として、簡易健康チェックを立案し、避難所訪問を実施したので報告する。

【対象と方法】 福島県内で避難所生活を強いられた相双地区12市町村住民のうち、県の災害対策本部、市町村、保健所、保健福祉事務所、会場責任者、地区医師会の同意が得られた2町について簡易健康チェックを実施し

た。平成23年5月1日は2班、5月8日には1班のボランティア職員による健診班を結成し、避難所を訪問した。

受診者は男69名、年齢66.4 ± 13.2歳、女77名、年齢66.1 ± 13.6歳であった。本人の同意を得て、諸検査に加えて、疲労感、ストレスの自覚症状および既往症を聴取した。心電図検査は、機動力を活かすため、循環器検診車を配車し、自動解析プログラムを活用して、軽度異常および異常の心電図波形を報告書に添付した。結果報告は、成績と判定を報告書に記載し、検査終了後、医師または保健師が本人に説明した。

【結果】疲労感は男女とも70%に見られ、精神的ストレスは男60%、女75%に見られた。既往症の調査では、高血圧症治療中43.2%、心臓病治療中13.0%、糖尿病治療中8.9%であった。尿検査は随時尿を用い、蛋白陽性が男9.0%、女4.0%、潜血陽性は男12.0%、女41.3%、糖陽性は男14.9%、女6.7%に見られた。血圧測

定は、WHO分類による中等症高血圧以上が男21.7%、女11.7%に見られた。心電図で異常と判定された割合は、男18.8%、女18.2%であり、所見内訳ではST-T異常、左室肥大、心房細動が上位を占めていた。

【考察】避難所生活が長期化し、エコノミー症候群や心筋梗塞、心不全といった生命にかかわる重大な疾患の発症や糖尿病、高血圧症など慢性疾患の悪化の対策および予防は重要な課題である。原発避難者は、高血圧、心臓病、糖尿病で治療中の方が多いのに、地元を離れざるを得ず、主治医への受診は不可能に近いので、継続的な医療を受けられるような支援が必要であると感じた。

また、被害甚大な災害時には、行政をはじめ関係機関は混乱の中にあり、解決すべき課題が山積しているので、これら事例の集積は将来への教訓として役立てられねばならないと考える。

【まとめ】高血圧、虚血性心疾患、不整脈、

血尿、糖尿など過酷な生活や積もり積もった心労によると考えられる所見保有者が目立ち、なかには緊急加療を要する事例もあつたりして、意義深い活動であつた。

また、これを機会に本協会職員が一丸となつて行動できたことは、その後の業務を進める上で大きな収穫であつたと考えている。